



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月3日

東

上場会社名 株式会社ダイショー

上場取引所

コード番号 2816

URL <https://www.daisho.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 松本 俊一

問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 三浦 和信（TEL）092-611-9340

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	5,906	5.5	△39	—	19	—	△5	—
2026年3月期第1四半期	5,598	0.8	△142	—	△150	—	△109	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△0.57	—
2026年3月期第1四半期	△11.37	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	19,879	9,965	50.1
2026年3月期	20,440	10,089	49.4

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 9,965百万円 2026年3月期 10,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	9.00	—	12.00	21.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期（予想）	—	10.00	—	10.00	20.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	12,900	4.0	120	△48.3	120	△46.9	70	△48.6	7.25
通期	28,500	3.7	700	2.9	700	5.0	420	△7.7	43.51

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	9,868,800株	2026年3月期	9,868,800株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	216,109株	2026年3月期	216,109株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	9,652,691株	2026年3月期1Q	9,652,712株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期累計期間の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇の継続に加え、中東情勢や金融市場の変動などの影響が懸念され、先行き不透明な状況が続きました。

食品業界におきましては、原材料価格や包装資材価格、物流費、人件費の上昇が継続しており、各企業において価格改定やコスト上昇への対応が求められる厳しい経営環境が続きました。また、消費者の節約志向は依然として根強く、価格と価値の両立がこれまで以上に重要となっております。

このような状況のもと、当社は、2028年3月期までの中期経営計画に沿い、「ビジョンの深化と価値実装」を掲げ、ビジョンをより具体的な価値として市場・顧客・組織へ着実に届けてまいります。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群の小売用製品においては、主力製品の「焼肉のたれ」類が安定した売上を維持したほか、「暑さを乗り切る夏の献立」をテーマに発売した春夏向け新製品が好調に推移いたしました。なかでも『赤から監修 台湾春雨炒め用セット』『とんバラ焼の素』『三代目たいめいけん 茂出木浩司シェフ監修 煮込みハンバーグソース』などが売上に寄与いたしました。スープ類においては、「博多もつ鍋スープ」などの定番製品が堅調に推移したほか、「名店監修シリーズ」のつけ麺用スープなど、新製品が売上を牽引しました。業務用製品においては、多様なフレイバーで展開しているオイルソース類や惣菜向けのソースなど、精肉向けを中心に売上が増加したなか、1968年の発売以来、多くのお客様にご愛顧いただいている『味・塩こしょう』を使った『味・塩こしょうオイルソース 炭火焼風』が好調な滑り出しとなりました。この結果、売上高は41億99百万円（前年同期比107.6%）となりました。

粉体調味料群においては、小売用製品の『味・塩こしょう』シリーズが堅調に推移するなか、『お肉屋さんのからあげ粉』が売上を伸ばしました。この結果、売上高は11億83百万円（前年同期比103.7%）となりました。

その他調味料群においては、『5つの味のスープはるさめ』をはじめとした「スープはるさめ」シリーズが底堅く推移したものの、業務用製品の販売環境は厳しく、売上高は5億23百万円（前年同期比94.6%）となりました。

以上の結果、当第1四半期累計期間における売上高は、59億6百万円（前年同期比105.5%）となりました。利益につきましては、営業損失は39百万円（前年同期は1億42百万円の営業損失）、経常利益は19百万円（前年同期は1億50百万円の経常損失）、四半期純損失は5百万円（前年同期は1億9百万円の四半期純損失）となりました。

(2) 当四半期累計期間の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ5億61百万円減少し、198億79百万円となりました。固定資産が総資産の60.4%を占め、流動資産は総資産の39.6%を占めております。資産の変動は、主に「商品及び製品」が3億15百万円増加し、「現金及び預金」が3億69百万円、「受取手形及び売掛金」が3億51百万円それぞれ減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ4億36百万円減少し、99億13百万円となりました。流動負債が負債合計の70.5%を占め、固定負債は負債合計の29.5%を占めております。負債の変動は、主に「短期借入金」が3億円増加し、「長期未払金」が4億62百万円、「賞与引当金」が2億51百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ1億24百万円減少し、99億65百万円となりました。純資産の変動は、主に剰余金の配当1億15百万円の支出と四半期純損失5百万円の計上により「利益剰余金」が1億21百万円減少したことによるものです。自己資本比率は50.1%となり、前事業年度末に比べ0.7ポイント上昇しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「2026年3月期 決算短信」（2026年5月11日に公表）において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2026年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,928	1,558
受取手形及び売掛金	3,591	3,239
商品及び製品	1,450	1,766
原材料	593	647
その他	541	660
貸倒引当金	△5	△4
流動資産合計	8,099	7,867
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,239	5,168
土地	2,801	2,801
リース資産（純額）	398	354
建設仮勘定	—	11
その他（純額）	2,551	2,440
有形固定資産合計	10,991	10,776
無形固定資産	83	80
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,266	1,155
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	1,265	1,154
固定資産合計	12,340	12,011
資産合計	20,440	19,879

(単位: 百万円)

	前事業年度 (2026年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,288	2,321
短期借入金	1,900	2,200
1年内返済予定の長期借入金	320	320
未払金	1,227	1,248
未払法人税等	206	33
賞与引当金	477	226
その他	414	641
流動負債合計	6,834	6,991
固定負債		
長期借入金	2,120	2,040
リース債務	339	294
退職給付引当金	547	540
長期未払金	495	33
その他	13	13
固定負債合計	3,515	2,922
負債合計	10,350	9,913
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	8,870	8,749
自己株式	△114	△114
株主資本合計	10,006	9,885
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	83	80
評価・換算差額等合計	83	80
純資産合計	10,089	9,965
負債純資産合計	20,440	19,879

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	5,598	5,906
売上原価	3,652	3,781
売上総利益	1,945	2,125
販売費及び一般管理費	2,087	2,164
営業損失(△)	△142	△39
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1	2
不動産賃貸料	1	1
保険解約返戻金	—	65
その他	1	5
営業外収益合計	5	76
営業外費用		
支払利息	11	16
その他	1	0
営業外費用合計	13	17
経常利益又は経常損失(△)	△150	19
特別損失		
固定資産除売却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△150	19
法人税、住民税及び事業税	△40	25
法人税等合計	△40	25
四半期純損失(△)	△109	△5

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社は、食品事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	251百万円	274百万円